

裁判員制度の廃止へ 新たな闘争宣言!

■5月20日、650人で銀座デモ

裁判員制度実施前日の5月20日夕方、日比谷公園に「裁判員制度は知らない!大運動」に参加する人々が次々に集まった。高山俊吉弁護士は「国民の最後の審判は、裁判員制度はやめろ!だ。国民と権力者との間には強烈な対決が生まれた。このまま実施したら、権力者にとって惨憺たる状況が現出するだろう。労働者市民の生活が明日をも知れぬ状況になっている。だから裁判員制度が登場してきた。やめろ!のその声を、一步も引くことなく言い続けよう!」と檄を發した。

東京地裁・高裁のすぐ横を通り、銀座へデモに出た。「裁判員制度は現代の赤紙だ」「人を裁くことを強制するな」「拒否したら罰金、しゃべったら懲役なんておかしい」とアピールして歩いた。次第にデモがふくらみ、出発時点を大きく上回る650名となった。

デモの解散地点で「大運動」の呼びかけ人がマイクをとった。「デモは実に楽しいですね!」(今井亮一さん)、「この制度は家族もバラバラにする。あくまで廃止を!」(池内ひろ美さん)、高山弁護士は「私たちの闘いは2009年5月21日の到来では終わらない。裁判員制度をつぶす闘いをする!」と、闘いの継続を呼びかけた。

■私の拒否からみんなの拒否へ

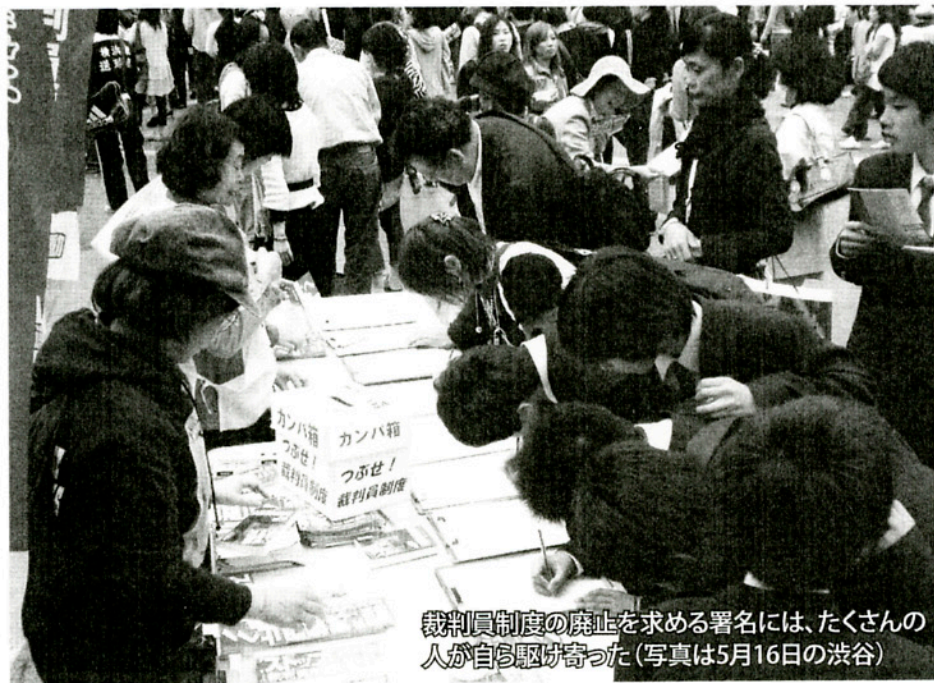
5月21日、「大運動」は会場で「あらためて制度の廃止に向けた闘争宣言



名古屋でもデモ(5/17)



実施前夜の5月20日、銀座デモには650人が集まった。百万人署名運動も首都圏から駆けつけた



裁判員制度の廃止を求める署名には、たくさんの人が自ら駆け寄った(写真は5月16日の渋谷)

を發する」との声明を發表した。高山弁護士は「私一人の拒否からみんなの拒否へ、みんなの拒否は制度の廃止へ。この思いで廃止をめざす」と語った。夕方、新宿駅で街頭アピールした。

■各地で集会やデモや街宣

この5月、全国各地で集会やデモ、街頭宣伝や記者会見など、「実施阻止」への闘いが繰り広げられた。

5月14日の真昼には最高裁一首相官邸一東京地裁・法務省を弾劾する「霞ヶ関デモ」が行われ、380人が参加し

た。街頭にあふれていた官庁街の労働者や市民の注目がとても高かった。

新潟や仙台、名古屋や長野、広島や福岡などでも集会やデモや街宣などが盛んに行われた。地域の弁護士や市民、ユニオンが闘いに立ち上がった。百万人署名運動の地域連絡会は、その中で全力で活動した。

裁判員裁判の実施は「早ければ7月下旬」と言われている。実施しないでほしい、裁判員を拒否したいという声が圧倒的にある。闘いを全国的に強化し発展させよう。その拠点をつくろう。